

寒冷地における斜面樹林化工法の施工事例

～ 落葉広葉樹林の形成 ～

自然を創出する斜面樹林化工法

- 気象条件が厳しい寒冷地においても有効な緑化手法です。
- 施工後5～6年程度で、木本植物群落形成されます。
- 生物多様性の保全や外来生物法に配慮した緑化が可能です。

施工地：岩手県二戸市白鳥字折爪地内
標高：約500 m
勾配：1:0.7～0.8
地質：風化粘板岩～礫混じり土
年平均気温※：9.7℃
年平均降水量※：1,011.7 mm
※二戸1979～2000年



7年2ヵ月後



緑化目標：多種類の自生種が混生したコナラ・ミズナラ群落の形成

施工年月：平成11年5月

使用植物：ミズナラ、コナラ、オニグルミ、ヤマモミジ、ヤマザクラ、カツラ、ヤマブキ、シラカンバ、ダケカンバ、アキグミ、ヌルデ、ヤマハギ、コマツナギ

適用工法：斜面樹林化工法（5 cm厚）

季節の循環を彩る落葉広葉樹林

春には新緑、夏には緑豊かな様相を呈し、秋の訪れとともに紅葉が観賞でき、晩秋には葉を落として冬の情緒が漂います。



6年2ヵ月後



緑化目標：多種類の落葉広葉樹が混生した木本植物群落の形成

施工年月：平成12年5月

使用植物：ミズナラ、エゾヤマザクラ、イロハモミジ、サンショウ、ヤマブキ、エゴノキ、シラカンバ、クサギ、ムクゲ、カツラ、キハダ、アキグミ、ヌルデ、ヤマハギ、コマツナギ

適用工法：斜面樹林化工法（5cm厚）

日本の山地を特徴づけるカエデ林



9年7ヵ月後



ヤマハギとアキグミが混在した植物群落が、カエデ類とアキグミの混交林に向けて順調に推移しています。



緑化目標：マメ科低木類とカエデ類を主体とした木本植物群落の形成

施工年月：平成8年12月

使用植物：ヤシャブシ、シラカンバ、ヤマザクラ、ヤマモミジ、イタヤカエデ、ウリハダカエデ、アキグミ、ヤマハギ、コマツナギ

適用工法：斜面樹林化工法（3 cm厚）

苗木と実生のコラボレーション

播種工による導入が困難な植物は、植栽工を併用することにより、花木等を含む多様性に富んだ植物群落が形成可能です。



7年2ヵ月後



法面上部



法面下部

緑化目標：吹付植栽工を併用した播種工による木本植物群落の形成

施工年月：平成11年5月

使用植物：（播種木）コナラ、ヤマモミジ、ヤマザクラ、ガマズミ、カツラ、ヤマブキ、シラカンバ、ダケカンバ、アキグミ、ヌルデ、ヤマハギ、コマツナギ

（植栽木）タニウツギ、ハコネウツギ、ユキヤナギ、ヤエヤマブキ

適用工法：苗木吹付植栽工法【斜面樹林化工法併用（5 cm厚）】

斜面樹林化工法で育った代表的な落葉広葉樹



コナラ



ミスナラ



シラカンバ



カエデ類